

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 55 号

発行日
2025.07. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○まだまだ「異邦人」状態ではあるが…

昨日(3日)、2度目の「トレーニングルーム」に行ってきた！先週から始めたものであるが、当面週1回のペースで行くことになった！ちなみに、その「トレーニングルーム」は私が居住している宜野湾市の体育館の中にあるもので、市内在住の高齢者であれば、無料で利用できるものである！よく、テレビ等で、そうしたところの光景を目にはしていたが、まさか自分自身が、その利用者になろうとは、想像だにしていなかった！もちろん、これは、我が奥さんの行動力の賜物であるが(彼女が、一緒に行動し背中を押してくれたのである！)、ようやく、意を決して通うことにしたのである！

ところで、実は、そこへは、例のコロナ前に(危なくなる直前？)、独りで試しに行ったことがあるが、まったくの「異邦人」状態で帰ってきたことを覚えている！そこでみた光景が、あたかも別世界のように見えたのである(その時は既に休業中で、無機質の器具類だけが、そこに林立していた！)。今回も、まだまだそういう感であるが(利用者は、そこそこいるが！)、頼もしい？連れが一緒なので、何とか続けられるのではないかとも思っている(何ともしやない次第である！)！
本音を言うと、足腰の不具合が、そうしたこと(体を動かすこと)を億劫にしているわけであるが、逆に言えば、その原因が、運動不足や筋肉の減退にあるわけであるので、少しでも克服出来ればと思ひ、やっとな腰を上げたというところでもある(もう遅いかもしれないが)。というところで、暑さ厳しき中(尤も、沖縄は、本土と比べれば、日中の温度は相対的に低い？)、毎週一回体育館に通うことになると思うが、果たしていつまで続けられるか？それにしても、連日暑い！

○一応は書いておかなければ…

さて、これも昨日(3日)であるが、予定の参議院議員選挙の公示がなされた。投票日は7月20日(日)であるが、今のところ、さほど興味が湧かない(もちろん、投票には行くが！)。「あるから行く」という呈であるが、ネット上では、「石破内閣発足から9カ月、これまでの政権運営が問われます。現金給付や消費税の減税など、物価高対策が大きな争点です。衆議院では少数の与党が、参議院で過半数を維持できるかが焦点です」とあった。確かにその通りなのだと思うが、どうしても気乗りがしないのである！ある意味、困ったものである！！

いずれにしても、今回もまた？雑多な政党・政治団体が候補者を出し、幾つかのそれが、これまでの動向に変化をもたらすような感もないわけではないが、いつまでこのような「トッピング合戦？」が続くのか？思想・信条、言論の自由と言えはそれまでだが、結局は、必要な変革には至らず、その繰り返し？偶に、期待を持たせるヒーロー／ヒロイン？もいたように思うが、結局は元の本阿弥？要は、そこに、根本的な何かが欠けている！！

「いつか『政治のデジタル化と議員定数の大幅削減』を公約に掲げる政党が出てくることを期待したい。幅広い世代の支持を得ることができるといふ言もあつたが(ある意味正論！)、そこに、確たる国策ヴィジョンがないと、表層(言葉遊び？)的なムード選択にしかならない！！要は、どういう国でありたいのか？「国の本質」(ここまでは詳細は出来ないが！)を問ひ、それを踏まえた議論(人の選出)がなされなければならないということである！

○これは、是非書いておきたいことである！

ところで、過日、二つのテレビ番組を観た。ただし、それは、同じ場所への取材番組(NHKのコラボ企画であった！すなわち一つが、「ドキュメント20min」(初回放送日6月6日)、もう一つが、「ドキュメント20min」(初回放送日6月9日)である。前者の番組は、よく観るのであるが、今回は、コラボ企画ということで、後者の番組まで観たということである！とにかく、内容が素敵で、もう一度？観てみたいということであった！舞台は、大分県別府市にある「立命館アジア太平洋大学」(京都の立命館大学との姉妹校だ！)であったが、様々なことを考えさせるものであった(もちろんいい意味で！)！ビビットな内容紹介は難しいので、それぞれの番組紹介を、ここでは転載することにする。

前者は、「多国籍の学生寮 青春の日々に」という見出しで、「今回の舞台は巨大な学生寮。寮生の半数が留学生で、94の国と地域からと、実に多国籍。いろいろな国の料理が見られる共同キッチンでの自炊。大浴場での裸のつきあいや、仲間との夜ふかし。文化の異なる者同士の生活は、楽しいこともあれば、難しいこともある。彼らは同じ屋根の下でどんな日々を送っているのか？」。後者は、「多国籍学生寮の72日間」ということで、「湯煙を一望する高台にたつスーパースターグローバル大学。超多国籍寮に密着。それぞれ異なる年齢、文化、言語。時にぶつかり合いながら、それでも互いの理解を深めようとする若者たちから見えてくるコミュニケーションの極意とは。多様化の時代を生き抜くヒントも。…」とある。教えられること、満載である！

ちなみに、前者は、「ファミレス、空港、居酒屋…。毎回、ひとつの現場にカメラを据え、そこで起きる様々な人間模様を72時間にわたって定点観測する…偶然出会った人たちの話に耳を傾け、今」という時代を切り取ります。」後者は、「見たいテレビなどない」という若い世代に向けて、「こんなテレビ見たことない！」といつももらうための20分間。これまでの演出・文法・テーマから自由な若手制作者たちが、新しいテレビの形を模索」とある。これからも、是非、そうした番組を期待したい！要は、そこに、真に伝わるものがあるかどうかなのである！(井上)

○「国の本質」？実はそれが、見えにくくなっている？ ○その感性とはどういふか？

表面で、井上氏が、今回の参議院議員選挙に関わって、『国の本質』を挙げ、それを踏まえた議論（人の選出）が「国」に読み込ませ、その理解の実力（感性）を試してみた！興味津々であったが、これもまた、予想に反はりそれだけでは抽象的過ぎて、よく分からない？しかも、各候補者は、直接的には、それに関わる言辭はなさなくて（なしている人もいる？）、当然そのことは意識している（否、そうでなければ、あまりにも悲しい？）！そんなことを思いながら、ここでは、私堂本（？）の方から少し補足させてもらいたいのである（一心同体のなせる業？笑）！

とは言え、改めて、『国の本質』を語ることが至難の業である！しかも、深い造詣のない者が無責任に語ることなど、通常では許されない？でも、語っておきたい！何故なら、昨今の山積する諸問題（教育問題も含めて）の解決には、そこへの回帰と、それを踏まえた議論がなされなければ、ほとんどが場当たり的となる（否、それさえにもならない？）からである！みんな、それぞれに頑張っている！だが、なかなかいい方向に向かわない？否、むしろ「分断と格差（孤立）」が進んでいる？生き甲斐・働き甲斐がない！どうしてこんなことまでしてはならない？そんなことを、日々感じながら、多くの人は生きているのである！！一体、この「国」はどうなろうとしているのだ！！

そこで、『国の本質』であるが、もちろんそれは、「主権と領土（の保持）」である！だが、それは、「あるもの」ではなく、「努力して得るもの」でもある！だから、「国民」は、そのことを自覚し、自分達が、どういう「国」でありたいのかを、常に考え、そのための努力をする必要がある！実は、そのための大きな機会が選挙ということになるが、それが、そのように機能していないならば、「国」そのものが危ない！要は、「国民」が、「自国において」、「どのように生き合おう」としているのか、真摯に問われなければならない！というのである（単なる集票ゲームではない！世界は、そのことを嫌というほど見せている？）！！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕555

話は変わるが、私（達）の短歌集を、例の「チャットボット」（AI）に読み込ませ、その理解の実力（感性）を試してみた！興味津々であったが、これもまた、予想に反はりそれだけでは抽象的過ぎて、よく分からない？しかも、各候補者は、直接的には、それに関わる言辭はなさなくて（なしている人もいる？）、当然そのことは意識している（否、そうでなければ、あまりにも悲しい？）！そんなことを思いながら、ここでは、私堂本（？）の方から少し補足させてもらいたいのである（一心同体のなせる業？笑）！

とは言え、改めて、『国の本質』を語ることが至難の業である！しかも、深い造詣のない者が無責任に語ることなど、通常では許されない？でも、語っておきたい！何故なら、昨今の山積する諸問題（教育問題も含めて）の解決には、そこへの回帰と、それを踏まえた議論がなされなければ、ほとんどが場当たり的となる（否、それさえにもならない？）からである！みんな、それぞれに頑張っている！だが、なかなかいい方向に向かわない？否、むしろ「分断と格差（孤立）」が進んでいる？生き甲斐・働き甲斐がない！どうしてこんなことまでしてはならない？そんなことを、日々感じながら、多くの人は生きているのである！！一体、この「国」はどうなろうとしているのだ！！

そこで、『国の本質』であるが、もちろんそれは、「主権と領土（の保持）」である！だが、それは、「あるもの」ではなく、「努力して得るもの」でもある！だから、「国民」は、そのことを自覚し、自分達が、どういう「国」でありたいのかを、常に考え、そのための努力をする必要がある！実は、そのための大きな機会が選挙ということになるが、それが、そのように機能していないならば、「国」そのものが危ない！要は、「国民」が、「自国において」、「どのように生き合おう」としているのか、真摯に問われなければならない！というのである（単なる集票ゲームではない！世界は、そのことを嫌というほど見せている？）！！

○ここからは、九州での隠れた事績を追う！その100！

しかるに、ここでは、改めて「多氏」の九州進出に関わって、一つ押さえておかねばいけないことがある！それは、「阿蘇（神社）」と「高千穂（神社）」の関係である！もちろん、そこには、その中間（阿蘇高千穂）に位置する「草部（神社）」との関係も関わっているが、特に注目されるのは、その双方の地に残っている、謎の？「鬼人（神社）」（土地の豪族・草部（神社）である！詳しくはここでは書けないが、同じような伝説（鬼人が、神武の大和での長子とされる「神八井耳命・多氏の祖の孫・健甕龍（神社）」に從属させられたこと）が、両地に伝わっているのである！

尤も、それに関わる、これも謎の？「彦八井耳（神社）」の存在（二説には、「神武東征」途上在地に戻った神武の子とも？「草部（神社）」と見做される？）が、かなり不確かな話として絡まっているので、この辺りの伝説の整合性が気になるのであるが、いずれにしても、かの「阿蘇（神社）」と大いに関係している「高千穂（神社）」は、是非とも記しておくかなければならないのである（当地の「天宮神社」とか「櫻岡神社」等の存在も含めて！）！

ということで、「高千穂神社」の本来の祭神？である「三毛入野（神社）」は、伝承では「彦八井耳命」（「草部（神社）」とされているが、「多氏」の「健甕龍命」に懷柔された当地の豪族ではなかったか？ということである）！また、阿蘇には、「山部（神社）」と名乗る氏族もいたようであり、南方の「焼畑農業」の要素は、恐らく彼らがもたらしたのではないかと考えられる！ちなみに、高千穂（神社）は、件の「鬼人伝説」に関わる「猪々掛（神社）」（祭神・熊手・熊振り神・高千穂神・阿蘇との関係には重大な謎が横たわっている！突拍子もないことだが、天孫降臨の地が二つあることも、別な意味では、大いなる謎である！）

すなわち、後の高千穂は、豊後（今佐）の大神（神社）（「三井氏」が入ってくるが、彼らが、天孫降臨の地をそこにもつてきた？一方で、同じ宇佐の「辛島（神社）」（秦氏の一族・宇佐神社・八幡の正統）は、かの「軍人の乱」（720年に際して大挙「大隅」に移動させられ、例の「鹿兒島神宮」を「正八幡宮」と公称し、「天神氏」との確執に意地を見せている）二つの「高千穂（神社）」（？）（？）

〈編集後記〉妙な梅雨明けであったが、何故か、それがぐり返している？これは、何を意味しているのか？（井上／堂本）